

令和7年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○次の6項目を推進することにより、鬼怒商業高校生としての誇りをもちつつ、将来、地域のリーダーとして社会に貢献できる「人財」の育成に努める。 1 生徒の個人的資質の向上に努める。 2 商業に関する専門的知識の育成に努める。 3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。 5 安心・安全な学校づくりに努める。 6 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・) ポリシー	○世の中の動きや商業に興味があり、商業に関する学習をしたい生徒 ○簿記・情報処理などの資格や商業の学びを生かして進学・就職したい生徒 ○目標をもち、本校での学習をとおして自分の可能性を伸ばそうとする生徒 ○学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
<p>【学習指導】 学習状況を各教科ごとに観点別に評価し、その実現状況を分析し評価することができている。また、グループワークやペアワークを取り入れて互いに学び合う機会を設けた事により、積極的に学ぶ姿勢が見られる。生徒個々がタブレット等を活用し、互いに学習評価をすることができている。ICT機器を活用し基礎基本を重視した家庭学習をとおして「わかる」「できる」と所感する生徒が増えている。 教科内にとどまらず教員間での研修会等の情報交換を図ることにより、自律的活動力や自己理解など、学び続けるための基盤となる「態度・価値観」を育成していく。 連携型キャンパス制において、オンライン授業を活用した質の高い授業展開を実現する。また、探求活動等を推進していく。</p> <p>【進路指導】 求人票Web閲覧システムを構築し運用できたことで、家庭での求人閲覧が可能となり、より充実した進路支援をすることができた。また、履歴書のデジタル化を進め、業務の効率化を図った。 進路資料室の整備を進め、進路担当者とクラス担任が、各生徒の個性や適性を見極めながら、夢や希望に向かった支援を行った。 進路ガイダンス等の実施にあたり、各生徒の可能性を見出し、「やりたいこと」「できること」を広げる観点から、計画的に行う。また、自己理解、社会理解、仕事理解を促進する。 教員が民間企業を理解し、必要とされる人材育成を行う。</p> <p>【生徒支援】 規範意識の高い生徒の割合が増えており、学校全体としての秩序が保たれている。「服装指導票」が有効に活用されるようになり、学年間の指導基準の格差等もほとんどなくなり、足並みのそろった指導体制が整ってきたと思われる。QRコードを活用した「学校生活アンケート」を月1回程度実施することによって、盗難や人間関係トラブルの早期発見等に効果があった。今年度も引き続き実施していきたい。 SNSの活用について再度注意喚起を行い、家庭の協力も得ながら、ネット上のトラブルを未然に防止していきたい。また、ここ数年、自転車盗難や交通事故件数がなかなか減らない状況が続いているので、駐輪場での施錠の徹底や、ヘルメット着用の呼びかけ等を行い、交通マナーや安全運転の意識を向上させたい。 「生徒支援部」に改名したことを契機に、今まで以上に、生徒の多様性を重視しながら、生徒の抱える悩み等に寄り添ったサポート支援を行う。</p> <p>【特別活動】 全体を通して、生徒会役員・実行委員が活躍し、生徒の意向が十分に生かされた行事運営ができていた。また、生徒総会に向けての意見集約、行事後の振り返り等を通して、生徒会活動に主体的に参加する姿が見られた。文化的行事では、保護者4名まで限定で公開文化祭を行った。模擬店では初めてキャッシュレス決済を導入し、運営の効率化を図るとともに、キャッシュレス決済における消費者・事業者それぞれの関わり方を実体験で学ぶ機会となった。結城一高との「学校連携型システム制」導入に先駆けて、生徒会役員による文化祭の相互視察、チアダンス部の演技、吹奏楽部の演奏、とうむぎあいすのPR・販売を行い、結城市イルミネーション事参に合同で参加した。 学校行事の企画・運営を生徒が主体となる環境をつくり、生徒たちが積極的に行動できるようにする。各施設施錠の徹底を図るため、部活動内の意思疎通および責任意識を高める必要がある。結城一高との連携に伴い、生徒会中心に地域イベントへの参加など学校外での活動の場を広げる</p>	生徒の個人的資質の向上	○基本的な生活習慣の確立及び豊かな情操とコミュニケーション能力の向上 ○授業、部活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて達成感、生徒の自己肯定感の向上 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善による、新時代に求められる資質・能力の向上	B
	商業に関する専門的知識の育成	○教科内の連携による指導法の共有及び授業公開と意見交換による教員の授業改善 ○タブレット端末や電子黒板等、ICT機器を有効に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現 ○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成	B
	保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校Webページ等、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保 ○キャリアパスポートの活用及びキャリア教育の充実による進路実現100% ○ボランティア活動や課題研究等、地域社会と連携した体験的学習及び課題解決学習の充実	B
	生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントを推進し、計画的かつ組織的な教育活動の向上 ○PDCAサイクルを機能させ、学校評価と関連付けた教育内容の質の向上および教師の授業改善「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合90%以上 ○組織マネジメントの推進、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善	B
	安心・安全な学校づくり	○生徒が安心して学習に取り組める環境づくり ○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応 ○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等、生徒一人一人と向き合う丁寧な対応	B
	働き方改革の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、教育の目的達成に適切な方法となっているか不断の見直し ○校内における情報の共有化の推進 ○地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進	B

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	国語の基礎的な知識・技能をしっかり身に着ける。	定期テストや単元テストに加え、ノートや課題集等の点検を行い、学習内容の理解度を評価する。	A	B	【達成状況】 ○到達度テストの結果分析より、基礎的な言語事項や論理的に読む力を向上させることができ、細やかな日々の指導の成果が十分に表れている。 ○6月に実施した漢字検定では、準2級2名（合格率67%）、3級6名（合格率86%）が合格し、高い合格率を達成することができた。 ○長塚節文学賞に応募し、俳句部門3名（1年1名・2年2名）、短歌部門3名（1年2名、2年1名）が入選した。
		様々な場面や状況に即した思考力・判断力を育成する。	文章の論理を正しく読み取ったり、わかりやすく説明したり、情報を適切に取捨選択したりする力を身に着けられるよう指導する。	B		
		様々な状況に応じて書いたり、話したり、聞いたりすることにより、表現力を育成する。	感想文や実用的な文章を書く授業や、スピーチや話し合いの授業を通して、自分の考えを構築し、表現する機会を設ける。	B		
		自ら考え、主体的に学習する態度を養う。	ICT（スタディサプリ等）を活用し自己の学習を振り返ったり、学びを深めたりする助けとする。	B		
		漢字検定を受検する生徒を増やし、合格に向けて援助する。また、自治体が主催する俳句や短歌等の賞に応募する。	A			
	社会	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。	ICT機器の効果的な活用によって、生徒が取り組みやすい身近な話題を学習課題として設定する。	A	B	【達成状況】 ○公共、地理総合、歴史総合の授業でパワーポイントを使用し、ICT機器を効果的に活用した授業が概ねできた。 ○Canvaを用いたレポート作成を行い、生徒の情報を整理・分析する力や表現力を高めることができた。 ○時事問題を取り上げ、身近な生活の課題や政治への関心を高めることができた。 ○税務署の方を招いて租税教室を開催し、税金の知識を深めることができた。 ○ワークシートをチェックし、個々の生徒の進捗度合いや授業への取り組みを確認し、助言をした。
			対話型の授業を展開し、グループワークを単元ごとに取り入れる。また、発問を工夫したり、パフォーマンス課題を設定したりするよう心がける。	B		
		社会の形成者となるための資質を養う。	様々な資料を利用し、外部機関との連携を図りながら、成年年齢の引き下げにより生じる様々な問題や責任について考えさせ、知識を習得させる。	A		
		基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやワークシートのチェックを通して、個々の生徒の能力に応じた、きめ細かい指導を行う。	B		
	数学	生徒の学習意欲・基礎学力を向上させる。	基礎的な学習内容を理解したあとに、問題演習の時間を十分に確保することで知識の定着を図る。解説の際、電子黒板やタブレットを活用する。タブレットを活用し、家庭学習の機会を確保する。	B	B	【達成状況】 ○十分な演習時間を確保し、繰り返し問題を解くことで、学習内容を定着させることができた。 ○電子黒板・タブレット活用し、視覚的な理解を促すとともに、個別の課題克服に向けた家庭学習も充実させることができた。 ○机間指導により生徒の習熟度を把握し、苦手意識を持つ生徒へその都度指導することができた。 ○グループ活動の機会を積極的に設けることで、生徒同士の学び合いを促し、生徒主体の授業を進めることができた。
			授業中に発問や机間指導を行うことで、生徒とのコミュニケーションを図り、苦手な生徒には個別に対応する。ワークやプリントの提出状況から生徒の理解度を確認する。適宜小テストを実施し、単元ごとの理解度を把握する。	A		
		主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	グループ活動を取り入れ、意見を交流する機会を作る。また考えを黒板に記述させ発表させたり、その解答について考察する時間を設ける。	B		
	理科	基礎的な学力の定着を図る。	中学での内容にもさかのぼって復習しながら、理科に関する基本的な法則・公式を理解し、一般常識にもつながる基礎的知識をしっかりと身につけさせる。	B	B	【達成状況】 ○電子黒板やタブレットを活用することで、個別に苦手な分野を学習することができた。 ○机間指導を十分に行い、苦手な生徒への指導を個別に行うことができた。 ○生徒が質問に答えるなど生徒主体の授業をすることができた。 ○基本事項の復習を丁寧に行うことで、本時の問題への理解度が増した。
		受け身ではなく、能動的な授業参加を促す。	生徒と教員及び生徒間のコミュニケーションを重視した授業を通して、生徒の発表機会を増やして自己肯定感を高めながら、理科に対する苦手意識を少しでも払拭する。	B		
		日常生活にあふれる科学的事象に対する興味・関心を高める。	ICT環境の有効活用及び、生徒実験・演習実験を適度に取り入れることで、科学全般に対する生徒の興味・関心を高める授業展開に努める。	B		
		物理実験室・化学実験室を整備し、他教科も含めた授業での有効活用を促す。	計画的に実験室の備品等の整備を進め、実験室等の活用を活発化して、実験・演習・映像教材視聴等の様々な形態の授業を取り入れる。他教科にも積極的に開放し、学校全体として有効利用を促す。	B		

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。	A	【達成状況】 【体育】 ○体力テストA及びBの割合は51.4%と目標の50%を達成することができた。50m走、ハンドボール投げ、長座体前屈は男女ともに全国平均を上回っていたが、例年の課題であるシャトルランにおいては男女ともに全国平均より低かった。 ○卒業課題については補習等を行い、目標を概ね達成することができた。 ○実技研修として指導の仕方など適宜話し合いや共通理解を図った。 【保健】 ○各授業において身近なニュースを取り上げながら授業展開を図った。生徒の興味を引き、具体的に内容を理解し、思考・判断することに繋がったと感じる。 【次年度の課題】 ○体力テストのA及びBの割合のボーダーを50%として、体づくりや持久走などの授業を通して体力を高める運動を取り入れたい。 ○体育館で行う種目で、ICTの活用をさらに進めていきたい。
	できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率75%以上を目指す。	B	
	体育的・学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ、体育祭種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。	A	
	よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。	B	
保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	ICTを活用して話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	B	
英語	基礎学力の向上	ICT機器を効果的に用いて言語活動の時間を増やし、基礎学力の定着と向上に努める。	B	【達成状況】 ○GoogleスライドやCanvaを利用した言語活動を行い、基本的な英語でのコミュニケーション能力の向上に努めることができた。 ○単元ごとのテストや小テストを行うことで、生徒が継続的に学習する習慣をつけさせることができた。 ○全商英検で、1年次で3級合格率が60%を超え、2級で2名、1級で2名の合格者を出すことができた。 ○ALTの発話に対し、理解できないと私語が増えてしまう場面があった。 【次年度への課題】 ○生徒がICT機器を授業の目的以外で使用する可能性があるため、使用場面やルールを明確にし、活動内容を限定することで学習に集中できる環境づくり ○単元テストや小テストでの欠席者への対応 ○積極的にコミュニケーションを図れるような言語活動
		単元ごとに確認テストや小テストを行い知識の定着を確認し、課題を提出させることで、理解不足の生徒に対する継続的な指導に努める。	B	
	資格取得	1年生は全商英検3級合格者50%を目標に、上位の級の合格者も出るよう授業・課外等で効率的な指導に努める。情報ビジネス科の生徒及び意欲的な生徒には2級への積極的な取り組みを促す。	A	
	実践的コミュニケーション能力の向上	ALTとのティームティーチングを最大限に活用し、リスニングやスピーキングのスキルと自信を高め、主体的にコミュニケーションを図る土台をつくる。	B	
ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、他者との対話的なやりとりを通じて自らの考えを深めながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。		A		
家庭	主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技術を習得する	ICT機器を効果的に活用し、具体的でわかりやすい授業を展開する。	B	【達成状況】 ○書画カメラや電子黒板を、図表の説明や生徒の発表に活用することができた。 ○学習ノート等の提出物は単元ごとに点検し、未提出がないように指導することができた。 ○きゅうりの半月切りや厚焼き卵の実技テストを実施することで、基礎的な技能を定着することができた。 ○安全・衛生面に十分配慮しながら、調理実習をすることができ、生徒も積極的に取り組んでいた。 ○ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活に関心を持たせ、主体的に生活の改善・向上に取り組もうとする姿が約9割の生徒に見られた。 【次年度への課題】 ○ICT機器を効果的に活用した授業の実施 ○無気力な生徒への指導の工夫 ○ホームプロジェクトの課題の見つけ方の工夫
		プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。	B	
		実験・実習を通して、コミュニケーション能力を養い、協調性や自主・自立の精神を育成する。	A	
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。	B	
商業	学力・指導力の向上を図る。	生徒一人一人の実態を把握し、「わかる」「できる」「楽しい」授業を目指し、知識の定着を図る。また、探究的活動を通してビジネスに関する課題を発見し、創造的に解決する力を育成する。	B	【達成状況】 ○多くの授業でICTを活用した授業を展開することができた。しかし、表現する機会が少ないため、授業の内容を改善する必要がある。 ○出前授業や販売実習で本校の取り組みに興味を持っていただき、本校にさせたいという声を多く聞くことができた。 ○情報処理・英語・商業研究発表で関東・全国大会に出場することができた。 【次年度への課題】 ○授業全体の見直し（AIの活用・地域企業との連携・検定試験） ○出前授業の増加、内容の見直し ○検定試験受験級の見直し ○相互配信授業の進め方 ○検定試験の事務手続き
		ICT機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。個別最適な学びと協働的な学びの実現。	B	
	商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。	A	
	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	商業を学ぶ中で、ビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける。ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成し、キャリア教育につなげる。	B	

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教務	ICT教育の5つのメリット（わかりやすい授業、学習の効率化、校務の効率化、個別・協働学習、情報活用能力）を活かすため、職員個々のタブレット機器活用度合いのばらつきを解消する。生徒の学習意欲や集中力アップをねらい、積極的にICT教育を活用しGIGAハイスクール構想の実現を目指す。	タブレットの活用場面を明確化することで、効率的な一斉学習を実現する。また、タブレットを活用することで、効率的な調べ学習や好奇心に合わせて自主的な学習の後押しする。	B	B	【達成状況】 ○相互授業参観を通じて教職員間のICT活用スキルの平準化と活用頻度が向上した。 ○各教科がGoogleクラスルーム等を活用した週末課題や単元テストを実施した。 ○「単元別指導と評価の計画」に基づき、従来の定期考査に依存しない評価ができている。 ○「到達度テスト」や「スタディサプリ」の積極的な導入により、家庭学習の習慣化を促すことができた。 ○学校行事の精査を行い、必要な授業時間の確保に努めた。 ○肖像権の取扱いについて同意書を作成し、個人情報の取り扱いについてのガイドラインを遵守し、適切な管理を行った。 ○学校ホームページを活用した積極的な情報発信により、本校の教育活動のPRに努めた。
	「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその確実な運用。	前年度の「単元別指導と評価の計画」による観点別評価を検証し、それ踏まえて改善をおこない運用する。	B		
	基礎学力の定着を図り、学業不振の転退学者の減少に努める。	「到達度テスト」を有効活用し、基礎学力の向上を目指す。また、スタディサプリを積極的に活用し、家庭での学習に取り組む機会を設け、あらゆる場面で学習習慣が定着できるよう促す。	B		
	生徒の個別最適な学習の支援および実現	生徒の学習能力差に応じた学習内容の提示し、放課後の課題等、個別的な学習活動を支援する。	B		
	授業時間の確保に努める。	学校行事の精査を行い、必要な時期に必要な授業時間が十分確保できるよう努める。	B		
	情報の保護・管理に努める。	茨城県が定める個人情報の取扱いに係るガイドライン、および県立学校情報セキュリティ対策基準に則り学校における情報管理の徹底を図る。	B		
	学校ホームページの適正な運営と積極的な活用によって教育活動の公表に努める。	学校運営にかかわる情報発信の窓口としての役割を果たし、教育目標の達成のために必要な情報をねらいをもって伝え、本校教育活動のPRをする。	B		
校務分掌	挨拶の活性化及び時間厳守に努める。	登校時の昇降口及び廊下等での挨拶を教職員全体で積極的に促す。また、時間厳守の大切さを様々な場面で伝え続け、登校時8:35までに入室の遵守や、授業開始時の遅刻者数を減らす。	A	B	【達成状況】 ○ここ数年、規範意識の高い生徒の割合が増えており、今年度も一部の生徒を除き、概ね生徒は落ち着いた生活を送っていることから、学校全体としての秩序は保たれている。 ○今年度から遅刻の定義を明確化し、学校全体で遅刻者の数も減り、時間厳守の認識が定着しつつあるように思われる。 ○昨年度から、毎月1回「学校生活アンケート」をGoogleフォームで実施するようになった結果、アンケートに記入するだけでなく、生徒から、SNS上の問題行動などの情報等を教員に伝える認識が少しずつ広まってきたように感じる。また、問題行動が発覚した場合の対応において、学年格差がほとんど無くなり、組織的な対応ができてきているように思われる。
	校則の遵守及びマナーある行動を促す。	月1回の頭髪服装指導に加えて、「服装指導票」を有効に活用しながら、日頃から就職試験等に対応できる身だしなみを定着させる。また、マナーある行動を促しながら、他人を思いやる心を育む。	B		
	ネットモラルを定着させる。	スマホ安全教室、探求の時間、ホームルーム等を通して、SNSの使い方、インターネットに潜む危険を指導し、ネット上のトラブルを未然に防ぐ。	B		
	交通に関する規範意識を高め、事故を未然に防ぐ。	自転車点検、交通安全講話、バイク実技講習会等を実施すると共に、校外立哨指導やHR等で日頃から交通安全に関する注意喚起をし、危険が伴う「ながら運転」などをなくし、交通事故件数を減らす。	B		
	教職員間の情報交換を密にして、問題行動を未然に防ぐ。	職員の学年内外の風通しをよくして、生徒間のトラブルや問題行動が起きないように素早く対処する。また、盗難事件や問題行動が起ってしまった場合には、個ではなく、組織的に迅速に対応する。	A		
	教育相談活動を充実させる。	年3回の面談（2回は担任及び副担任との二者面談、1回は保護者面談）に加えて、SCによる生徒、教員、保護者へのカウンセリングの場を用意し、生徒が一人で悩み等を抱えこまない環境を作る。	B		
特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	A	B	【達成状況】 ○全体を通して、生徒会役員・実行委員が中心となり、生徒の意向を反映した行事運営ができた。また、生徒総会に向けて意見を集約し、各行事後の振り返り等を通して生徒が主体的に行事に参加する姿が見られた。生徒会主導で文化祭の身だしなみのルールに関する規定の改定をした。 ○体育的行事・文化的行事では、「体育祭と文化祭の日数配分を3年間でなるべく均等になるようにしたい」、「球技大会と体育祭を両方やりたい」という全校生徒のアンケート結果をもとに体育祭2日・文化祭1日、次年度体育祭1日・文化祭2日を交互に開催することとした。 ○野球応援では全校応援を実施することができ、一体感のある応援ができた。 ○学校連携型キャンパス制では、実り多き記念式典を開催できた。また、体育祭や文化祭の交流（チアダンス部の演技、吹奏楽部の演奏、美術・写真部が作品を合同作成、茶道部が合同お茶会開催、とうむぎあいすのPR・販売）を行った。部活動連携では、柔道部、陸上部、吹奏楽部、美術・写真部が合同練習や、合同作品の作成・展示などを行った。地域連携として、結城市イルミネーション事業に合同で参加した。
	部活動の適正な運営や効率的・効果的な活性を図る。	多様化する生徒の活動ニーズに応えるため、可能な限り短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な指導を行い、部活動以外の様々な活動にも参加できるよう対策を講じる。	A		
		医・科学的視点を最優先に考慮し、適切な活動計画に基づいて指導する。	B		
	学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	各ホームルーム役員等を中心に話し合いの機会を設け、考え、判断し、必要なことを決定していくなど、活動を活性化させることで、主体的な学校行事の参加を促す。	B		
	生徒会活動を通してキャリアパスポートを支援する。	多くの行事を通して、自ら企画立案し、振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。	B	【次年度への課題】 ○文化的行事の開催方法（日程、公開の範囲）の検討 ○結城一高との学校行事、部活動連携	

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
校務分掌	進路指導	進路について理解を深めさせ、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	進路ガイダンスの時期・内容を検討し、学年との連携を図りながら実施に努める。	A	B	【達成状況】 ○進路ガイダンスなど学年との連携によって、滞りなく実施できた。 ○インターンシップは11月時期とし、担当者を中心に円滑に実施できた。 ○オープンキャンパスや企業説明会など生徒が主体的に取り組むことができた。 ○企業、上級学校などの情報を生徒に対して的確に提供できた。 ○Webによる求人票公開は速やかに実施できた。 ○上級学校やハローワークと連絡を密にできたため、的確に生徒への情報提供が実現した。 【次年度への課題】 ○希望する生徒には、一人二社制を有効に活用し、就職時のミスマッチを防止する。 ○「進路の手引き」を生徒が活用しやすい内容に見直し。 ○進路資料室の企業や上級学校の資料等を充実させ、生徒が閲覧しやすくし、有効に活用できるようにする。 ○上級学校進学者に対して奨学金や入学手続等の理解を徹底する。
			上級学校のオープンキャンパスや企業見学会への参加を促し、進路選択のミスマッチを防ぐように努める。	A		
			「進路の手引き」を発行し、進路希望の実現に向けて有効活用する。	B		
		進路の情報提供を充実させる。	企業、ハローワーク、上級学校との連絡を密にし、ICTを活用しながら生徒に的確な情報を提供する。	A		
		進路資料室を効果的に活用する。	閲覧資料の整理に努め、生徒・職員・保護者が必要な情報を入手できるように、進路情報誌や学校案内及び会社案内等を充実させる。	B		
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	衛生管理の向上を図り、感染症等の予防対策に努める。	B	B	
			諸検診の効果的な実施に努める。保健室の効果的な運営に努める。	B		
			外部講師を招いた性に関する講演会を実施する。	A		
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。	B		
		清潔で安全な学習環境を目指し、環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	水質検査および室内環境検査等を実施する。	A		
			清掃道具を速やかに補充し、校内美化に取り組む環境を整える。環境美化への主体的な取り組みができるよう、委員会活動などを通して働きかける。	B		
	図書	図書室の環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援する。情報収集・選択・活用能力を育成する。	蔵書の配置や資料の整理、装飾の工夫、迅速な手続き処理などにより、図書室を利用しやすい環境にするよう努める。	B	B	
			1年生全員にオリエンテーションを実施する。図書室の利用法を周知することで読書及び学習活動の充実を図る。	B		
			新刊本の表紙や読みどころを掲示・表示することで、図書への興味・関心を喚起する。	A		
			リクエストボックスやアンケートを通して購入希望図書を募り、希望の60%以上の購入を目指す。	A		
		読書習慣の推進と育成を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を目指す。	生徒が構成に関わった「図書室だより」を年間3回以上発行し、読書のよさを周知するとともに読書に対する関心を高める。図書館関係行事の広報に努める。	B		
	図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。	図書室内の装飾・蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収などの活動を通し、図書委員の主体的な活動を推進する。	B			
	渉外	各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	在校生の保護者を対象とした学校公開日をはじめ、各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。	B	B	
			学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。	B		
			高P連やさわかまナーアップ運動等の学校内外への保護者の積極的な参加を促し、得た情報を共有する。	B		

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
学 年	一 学 年	基本的な生活習慣を確立させる。	日常生活における挨拶の励行、制服の正しい着装、身の回りの整理整頓を促す。	B	B	<p>【達成状況】</p> <p>○学年全体として落ち着いた生活態度で、大きなトラブルもなく学校生活を送ることができた。</p> <p>○授業でもほとんどの生徒が、ルール・時間を守り、意欲的に学習することができた。また自ら疑問点を見つけ、解決しようとする姿勢も身についた。</p> <p>○進路ガイダンスやバス見学会などを通して、職業観・学問分野への視野を広げることができ、自らの進路に対して前向きに考えることができた。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>○年間を通して基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>○校則の遵守、特にSNSなど情報モラルの指導を徹底し、自律的な判断力と規範意識の向上を図る。</p> <p>○タブレット利用におけるルールの徹底。</p> <p>○家庭学習の定着。</p> <p>○資格取得に向けて主体的かつ計画的に学習に取り組む態度の育成。</p> <p>○検定試験等の欠席者の減少。</p>
		欠席・遅刻・早退を増やさず、時間厳守の意識をもって生活する。	規則正しい生活を送るために、時間の使い方を考えさせる。また時間に遅れず行動することを習慣づけ、集団生活における時間厳守の重要性を理解させる。	B		
		鬼怒商業の生徒である自覚と責任をもち、規範意識を高める。	本校のルールを理解し遵守させ、SNSなど情報モラルの指導を徹底し、規範意識の向上に努める。	B		
		授業・学校行事の大切さを理解させる。	授業や学校行事へ意欲的に取り組めるよう、自ら考え行動できる主体性を育てる。	B		
		進路意識を高めさせる。	LHRや進路ガイダンス等を通して、必要な情報を提示し、将来を見据えた目標を設定させる。	A		
	二 学 年	基本的な生活習慣と規範意識の確立	集団生活において、時間と学校のルールを守って行動できるようにする。また社会規範意識の向上に努める。	B	B	<p>【達成状況】</p> <p>○学校生活において、ほとんどの生徒が規則を守って行動することができた。</p> <p>○基礎学力を定着させるために、オンライン教材を積極的に活用した。また資格取得に向けて、生徒たちが意欲的に学習する姿が見られた。</p> <p>○学校行事を通して主体性や協調性を育むことができた。</p> <p>○進路講演会や進路ガイダンス（模擬授業）、インターンシップや合同企業説明会など、生徒のニーズに応じて進路行事を適切に行うことができた。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>○1年次より、欠席や遅刻が目立った。進路決定に向けて、自己管理の大切さをより一層指導していきたい。</p> <p>○進路実現に向けて、生徒一人一人の希望に対応できる学年の体制を、進路指導部と連携して構築していきたい。</p>
		コミュニケーション能力の育成	挨拶を励行し、自分の考えや気持ちを適切に言葉で伝えるとともに、共感を持って相手の話に耳を傾ける態度を身につける。	B		
		学校行事への意欲的な参加とリーダーシップの育成	学校行事を通して、本校生としての帰属意識を高め、学校生活への充実感を得る。また、各特別活動においてリーダーシップを発揮し、中心となって活動できるようにする。	B		
		主体的に学習する態度の育成	オンライン教材を活用するなどして、自主的に学習に取り組む姿勢を育成する。また、各自が目標を持って資格取得に取り組めるよう支援していく。	B		
		進路実現への準備	進路ガイダンスやインターンシップを通して、具体的な進路先のイメージを持てるようにし、進路意識を高める。	A		
	三 学 年	生徒の希望する進路実現	必要な進路行事を適切な時期に実施することによって、進路に関する情報を生徒や保護者に提供するとともに、履歴書や願書の書き方や面接のスキルを身につけさせる。	A	B	<p>【達成状況】</p> <p>○就職指導は、学校の仲介による就職を希望する生徒は全員内定することができた。未決定者は5名。</p> <p>○進路指導は、現在受験中の生徒が1名いるが、その他は進学先が決定した。明治大学商学部にて推薦入試で合格者が出た。</p> <p>○検定試験は、情報ビジネス科を中心に、全商1級8種目取得1名、7種目取得2名他、結果を残すことができた。</p> <p>【次年度への課題】</p> <p>○就職試験（SPI等）に対応できる程度の基礎学力をつけるために、1年次から就職試験対策に取り組む必要がある。</p> <p>○進路決定後、欠席が増える生徒や学習意欲が低下する生徒が目立った。授業の工夫や面談を取り入れるなどの対策が必要。</p> <p>○コミュニケーション能力の低さから、人間関係の問題が発生後、修復不可能な生徒が見受けられた。コミュニケーション能力の育成に丁寧に取り組む必要がある。</p> <p>○就職試験以降も、スタディサプリをさらに活用できればよかった。</p>
			就職者の早期離職や、経済的な理由での進路変更がないよう、面談等を通して保護者としっかり連携しながら、3学年職員全員で生徒一人一人にきめ細かく進路指導を行う。	B		
		社会人となるために必要な知識やマナーの習得	各教科と連携を図るとともにスタディサプリ等のICTを活用しながら、一般常識や、社会生活において必要な知識の定着に努める。	B		
			学年全体でより一層資格取得に取り組むとともに、情報ビジネス科の生徒など上位の生徒は、難易度の高い資格に積極的に挑戦するよう促す。また、商業高校の特徴を活かして、金融教育を行っていく。	A		
			成人年齢を迎えることから、法の遵守や社会規範、選挙等を通して社会に参加する大切さを、折に触れて周知していく。また、他者を思いやる寛容な精神や協調性をも身につけられるよう、日常生活を通じて指導する。	B		

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った